

第21回太宰府市子ども・子育て会議 書面開催記録

*台風14号急接近および新型コロナウイルス緊急事態宣言延長により書面開催

当初開催予定日時 令和3年9月17日（金）午後7時00分～午後8時00分

当初開催予定場所 太宰府市庁舎5階全員協議会室

書面開催による意見等提出委員

肘井委員、三輪委員、杉本委員、藤本委員、岩渕委員、竹内委員、松野委員、伊藤委員、
原委員、井岡委員、後藤委員、岩崎委員

（以上12名）

市関係者 *書面開催のためメール等での事務連絡

田中健康福祉部長、鳥飼学校教育課長、添田（邦）社会教育課長、安西元気づくり課長、
松田（勝）子育て支援センター所長、寺原ごじょう保育所長、大石保育児童課長
（事務局）栗野係長、高原係長、桐田主事

<議案に対する事務局説明>

○議題1 「太宰府市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」の説明

資料2をご覧ください。また、併せまして、「子ども・子育て支援事業計画（表紙がブルー色）」の28ページもお開きください。

まず、資料2の1ページ目、「幼児期の学校教育・保育の量の実績について」の（1）「保育施設」について、申し込み状況をご説明いたします。こちらの表は、令和2年4月1日現在と、令和3年4月1日現在の利用申し込み者数の実績と、ニーズ量の見込みを比較した内容になります。令和3年度をご覧くださいと、ニーズ量の見込み1,624人の予測に対しまして1,741人の申し込みがっております。

令和3年度の実際の待機児童の状況については、資料3をご覧ください。

表の上部は、市内の認可保育所、及び小規模保育園の14か所について、保育所ごとの定員と入所決定児童数を記載しております。中央の「入所決定児童数」は、実際に保育所に入っているお子さんと、来年3月までに入る予定のお子さんの数の合計になります。

一番下の「入所保留児童数」の右端の計171人というのが、第一希望の保育所への入所を待っているお子さんの数になります。この、入所保留171名のうち、4月2日以降の入所予定の方、あるいは入所できる保育所があるのに、特定の保育所を希望されている方などを除いた、令和3年4月1日時点の県報告の待機児童は74人でした。なお、令和元年度及び令和2年度の待機児童がともに95人でしたので、令和3年度は21人の減少となりました。申し込み増に対し、水城保育園の建替えによる定員増と合せて、各施設の受入れを増やしたことで、待機児童が減少しました。

それでは、資料2に戻っていただきまして、次は、(2)の「特定教育施設」です。計画書は29ページになります。

幼稚園に関しましては市内に5園ありますが、新制度には移行しておりません。

令和2年度の実績891人は、ニーズ量見込み861人を上回っておりますが、5園の定員の合計1,270人の範囲中で対応できているという状況です。

次に、「地域子ども・子育て支援事業の量の実績について」の(1)「延長保育事業」です。計画書は30ページです。こちらは各認可保育園で実施しております。令和2年度に、小規模保育施設「梅の香保育園」が増え、14か所で実施しました。

しかし、利用者数実績は、前年度が821人だったのに対して730人と、前年度の9割にとどまりました。これは、4月・5月の緊急事態宣言下で新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものと思われまます。

次に、(2)「放課後児童健全育成事業」です。計画書は31ページになります。

実績は、学童全体で見ますとニーズ量見込の範囲内となっておりますが、小学校別では入所児童が多い学童と、そうでないところがあります。

学童保育所について、資料3をご覧ください。表の下の部分、令和3年度の学童保育所の入所決定状況をご覧ください。

令和2年度末には、定員40名の国分第三学童保育所を増設し、令和3年4月から運用を開始しております。よって、令和3年度から、定員は全学童保育所で900人となりました。今後、宅地開発により児童数の増加が見込まれる水城小学校については、教育委員会との連携を密にし、円滑な児童の受入れの方策を検討してまいりたいと考えておりますが、教室自体が不足する可能性もあり、担当課としては、学校施設の活用が困難になることを危惧しております。

資料2に戻っていただきまして、次に、(3)「子育て短期支援事業（ショートステイ事業）」です。計画書は32ページです。

こちらにつきましては、令和元年度は1名の利用がありましたが、令和2年度の利用はございませんでした。

続きまして、(4)「地域子育て支援拠点事業」をご覧ください。計画書は33ページになります。

こちらにつきましては、子育て支援センターと保育所太宰府園、筑紫保育園、それに令和2年度には10月から水城青稜保育園が加わり、合計4か所で実施しております。このことで、地域的な偏りを補完できたことに加え、西側エリアの利用希望者の利便性の向上に繋がっております。

前年度の述べ回数実績が24,433回だったのに対し、令和2年度は12,450回と、前年度の5割にまで落ち込んだのは、やはり新型コロナウイルスの影響によるものと思われまます。

続きまして(5)「一時預かり事業」です。計画書は34ページからになります。

①の「幼稚園における在園児を対象とした一時預かり」につきましては、ニーズ量の見

込の42%ほどであり、対応できている状況です。

次に、②の「認可保育所を利用した一時預かり事業」ですが、おおざの保育園、こくぶ保育園、ゆたか保育園、そして令和2年9月から、ごじょう保育所でも事業を開始し、4か所で実施しております。5月の緊急事態宣言下では、利用者が前年度比で約1/5まで落ち込み、最終的には実績が2,321回と、ニーズ量見込の62%ほどに留まりました。

次は、(6)「病児・病後児保育事業」です。計画書は36ページになります。

病児保育につきましては、市内2か所で対応しています。

利用者数実績は、前年度が468人だったのに対して167人でした。少ない理由としては、新型コロナウイルス感染防止として、保護者のリモートによる在宅勤務や、他人との接触を避けたい等により、利用者が激減したものと推測されます。このような状況は、緊急事態宣言が解除されても令和2年度末まで続きました。

次に、(7)「ファミリー・サポート・センター事業」です。計画書は37ページになります。

実績は40人で、令和元年度の実績と比較すると2人増えたものの、ニーズ量見込より利用者数は大変少なく、対応はできております。利用者数とニーズ量見込が乖離している

(令和元年度実績38人、ニーズ量見込420人)理由としましては、新型コロナウイルスの影響により、感染防止のため、子どもが家族以外と接触することを避けたり、リモートによる在宅勤務になったことで、子どもを家庭で保育する機会が増え、結果的に事業への依頼が減った事があげられます。

次に、(8)「利用者支援事業」です。計画書は38ページです。

妊娠期から子育て期まで切れ目なくきめ細やかに支援するため「子育て世代包括支援センター」を、令和3年4月からスタートしております。センターをより多くの方に知っていただき、気軽に窓口を利用できるように、令和2年12月に愛称を募集しました。応募の中から、市の花の「梅」と開放的なイメージのあるテラス(屋内と屋外を行き来できるもの。類似：バルコニー)を、親子の生活を明るくするという「照らす」にかけて、「うめっこテラス」に決定いたしました。

次に、(9)「妊婦健康診査事業」についてです。計画書は39ページになります。

こちらは、妊娠期間中、必要に応じた健診・検査に要する費用の一部を助成する事業です。実績は、ニーズ量見込をわずかですが上回る受診がっておりますが、すべての妊婦に対して対応ができている状況です。

次は、(10)「乳児家庭全戸訪問事業」です。計画書は40ページです。

こちらは、実績として545世帯への訪問を行っております。全戸訪問ですので、対象となる世帯には、すべて訪問しているという状況です。昨年度は、訪問する際の新型コロナウイルス感染防止対策として、手指消毒はもちろんのこと、マスク・フェイスシールド・手袋を着用し、訪問の際には事前にお電話をして、訪問について意向を確認するなど、最新の注意を払い、実施いたしました。

続きまして、(11)「養育支援訪問事業」です。計画書は41ページです。

こちらは支援を必要とする妊婦や世帯を対象に、訪問を行っている事業になります。実績がニーズ量見込を6件上回っておりますが、これは同一世帯のきょうだい児を対象とした訪問があったことにより述べ回数が増えたものです。なお、こちらにも、訪問する際の新型コロナウイルス感染防止対策として、訪問先での手指消毒、マスク・手袋の着用、室内には入らず、玄関先での対応に留めるなどの配慮のもと実施しました。

最後に、(12)「実費徴収に係る補足給付を行う事業」についてです。計画書は42ページになります。

こちらは、私学助成幼稚園に通う、低所得で生計が困難である保護者に対し、幼稚園に支払うべき副食費等の一部を助成する事業です。記載のとおり、対象となる園児数は184人です。

説明は、以上です。

○議題2 「令和3年度保育所等整備状況について」説明

資料4をご覧ください。

本年度は、令和5年4月1日開園を予定しております、認可保育所の新築を進めております。

本市では、待機児童の解消に向けた定員拡充事業として、既存保育所の定員増加や小規模保育事業所の設置を行ってまいりましたが、待機児童に解消には至っておりません。更なる定員拡充のため、認可保育所の新設を2か年事業で進め、今年度は設置・運営する事業者の公募を実施いたしました。現在までの経過につきましては、資料に記載いたしておりますとおりで、6月7日から6月25日にかけて応募の受付を行い、3事業者の応募がありました。応募受付後、第1次審査としまして、提出書類の審査を行い、第2次審査としまして、7月15日に選定委員会を実施いたしました。この選定委員会では、事業者によるプレゼンテーションと選定委員による質疑応答を実施し、同時に採点を行いました。

その結果、社会福祉法人 くじら（法人所在地 長崎県大村市）が候補者として適正であると判断したので、所定の手続きを経て、決定しました。今後、建設工事、開園準備等を経て、令和5年4月1日の開園に向けて進めているところでございます。

設置場所につきましては、別紙地図に示しております。通古賀5丁目、長浜・太宰府線、都府楼大橋の高架下でございます。

説明は以上です

<委員からの質疑および意見、所管課からの回答>

幼児期の学校教育・保育の量の実績について

(1) 保育施設（認可保育所・認定こども園・地域型保育施設）

○会長／質疑

令和2年度から3年度の利用申込者数が着実に増加しており、計画確保提供数を大幅に上回っている。この理由を探らないと適切な対処が困難なのではないだろうか。

既存園の定員増や認可園が増設によって対応されているが、理由を具体的にする必要があると考えられる。要望地域など詳細な情報分析をお願いしたい。

○回答／保育児童課

保育ニーズの見込み量につきましては、第二期計画を策定する際に、就学前人口は年々減少している中、保育所の利用申込数が増えているという本市の現状を踏まえ、令和6年度までに、就学前人口の45%まで保育ニーズが伸びるという予測のもとに推計を行いました。

しかしながら、女性の社会進出の増加等に伴い、令和3年4月時点で既に就学前人口の47%に達しているという状況となっております。

今後、計画としての実行性をもたせるためにも、ニーズの分析を行いたいと考えております。なお、要望地域などの詳細な情報分析は、次回以降の会議でお示しする予定です。

地域子ども・子育て支援事業の量の実績について

(2) 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

○委員／意見

マンションの建設によるニーズの増加に、水城小学校の建替え計画などこれから予測される変化の中で、子どもたちの育ちが保障される良い形ができていくと良いなと思います。どうぞ、よろしくをお願いします。

○委員／意見

大変だと思いますが、引き続き、コロナ対策をよろしくをお願いします。

学校の状況（特に、下校時刻）に合わせて対応していただいています。人員配置等が大変でしょうが、今後ともよろしくをお願いします。

(3) 子育て短期支援事業（ショートステイ事業）

○委員／意見

ニーズ量見込みと比較して、実績が少ない（H3：0人、H2：1人）ので、再度、実態把握（ニーズ調査）が必要だと思われます。

(4) 地域子育て支援拠点事業

○委員／意見

水城青稜保育園が加わって4ヶ所。太宰府西小校区は子どもが多いです。

大佐野公民館でのリフレッシュ託児も利用される方が多かったので、本当に良かったと思います。

(7) ファミリー・サポート・センター事業

○委員／意見

利用減には、コロナの影響が大きいです。おねがいさんも、おたすけさんも、お互いに用心して利用が減っています。また、リモート勤務も実績減になったのかなと思います。

ファミサポの活動に送迎ができました。自宅にお迎えに行って保育園までの送迎、保育園から自宅までの送迎もできます。ファミサポをもっとPRしたいと思います。

(8) 利用者支援事業

○委員／意見

うめっこテラスが出来たけど、支援センターの「ぽかぽかルーム」が、いきいき情報センターがワクチン接種会場になって、3歳児健診などや、緊急事態宣言でテラスが閉鎖になり親子が行くところがなくなっています。その分、支援センターへの悩み事相談も増えているのではと思います。ルミナスの託児室が開放されて利用されています。

資料3 学童保育所入所決定状況（令和3年度）

○委員／意見

水城小学校の児童数増加について、学童保育で利用できる教室の活用が困難になることを危惧とありますが、できるだけ早急に対策を取るべきことのように思われます。

保育児童課の範疇を越えることではあるとは思いますが…近隣小学校、中学校として太宰府小、中は現時点で3クラス、今後の宅地開発はあまり進まないと思われるエリアです。観世音寺地区など、現在の水城小校区の一部を太宰府小校区に再編するなど、具体的な検討が必要なのではないのでしょうか。

資料3 市内認可保育所 入所決定状況（令和3年度）

○委員／意見

梅の香保育園も認可保育園になって良かったです。「入所保留児童数」171人、希望の保育園待ち94人が気になっています。保育者がいるなど余裕があればいいけど、保育園まで遠くて行けないなど困っている状況が大きい家族があるのかなと心配しています。

資料4 令和3年度 保育所等整備状況

○会長／質疑

できれば、子ども・子育て会議においても、選定基準などを明らかにしておいて頂けると良いのではないだろうか。

施設決定のプロセス、メンバー構成などが公開されておらず、公平なものとなっているのかと疑問を持たれかねない。

○回答／保育児童課

新設保育所の公募による設置・運営事業者の選定に関しましては、「保育所新設にかかる運営事業者選定委員会要領」を定め、公正に選定を行いました。

選定基準等につきましても、非公開とせず、情報公開の開示請求の対象としております。

○委員／意見（思い・希望）

保育園を新築することは良いこと。社会福祉法人くじらは、関西で実績があるので良いと思うが、福岡市では先に企業型保育所くじらが存在しているので、混同されないように頑張ってもらいたい。

○委員／意見

通古賀、交通の便、子どもが多い所に保育所開設、嬉しいです。保留児童数が少なくなるといいですね。

○委員／意見

個人的には、令和5年に認可保育所が開園予定とのことで、待機児童解消に向けた大きな一歩となりそうで嬉しく思っています。